

# 川越町の公共交通の状況

令和4年8月

川越町役場 企画情報課



# 川越町の概況

## まちの特性

面積	8.72km <sup>2</sup>
歴史	昭和34年9月26日 伊勢湾台風により甚大な被害 昭和36年5月1日 町制施行 → 令和3年5月1日 町制施行60周年
地形	地質は、鈴鹿山脈から流れる朝明川と員弁川の沖積層地帯で、地形は標高0m～5mと起伏のないまち
特徴	1.7km <sup>2</sup> の埋立地(昭和50年5月竣工)に臨海工業地帯が形成され、用途地域別では、工業地域関係が約47%



伊勢湾岸自動車みえ川越IC



伊勢湾岸上空からの川越町

# 川越町の状況

## ○概況

三重県の北部に位置し、北は員弁川(町屋川)を境に桑名市に、南は四日市市、西は朝日町に接し、東は伊勢湾に臨む、東西約4.2km、南北約3.9km、面積は8.72km<sup>2</sup>

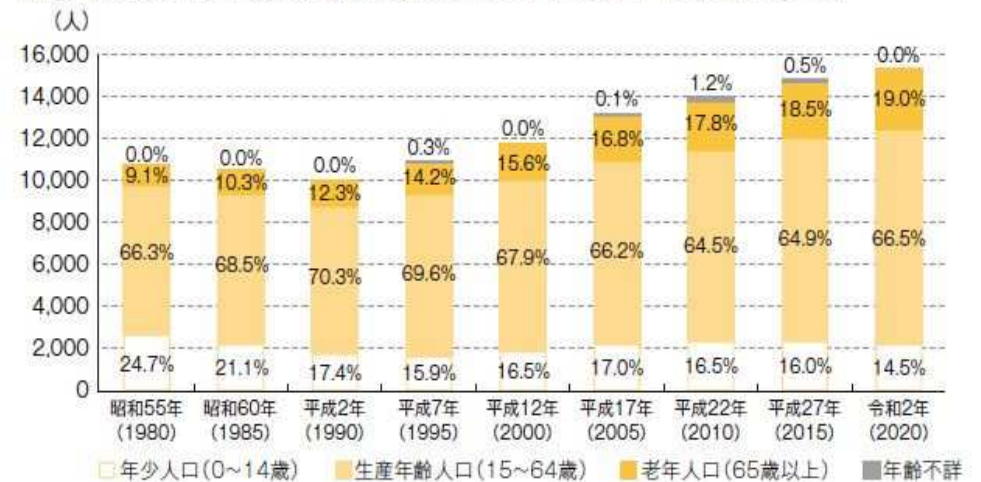
## ○人口

平成2年(1990年)の9,988人から増加に転じ、令和4年には15,492人。今後も人口増加を見込む。

## ○人口構造

若い世代の社会増を要因に、**高齢化率は県内で最も低い**

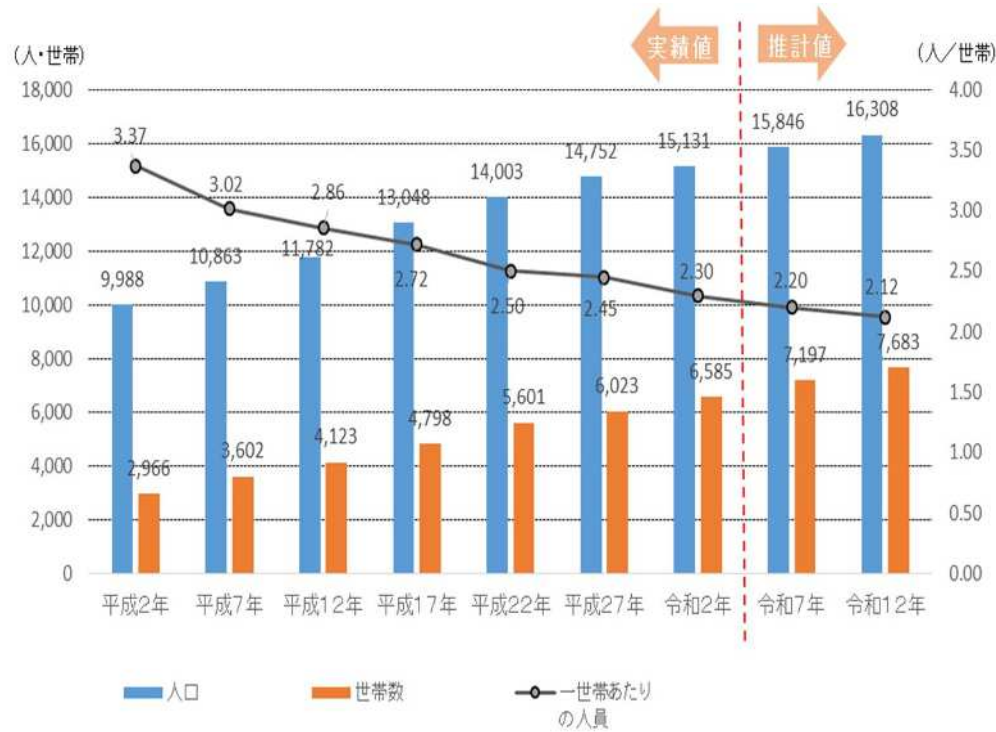
図表 川越町の年齢3区分別人口構成比の推移(昭和55年(1980年)~令和2年(2020年))



資料:国勢調査(昭和55年~平成27年)、住民基本台帳人口(令和2年10月1日現在)

資料:第7次川越町総合計画

# データでみる川越町



資料：第7次川越町総合計画  
(実績値は国勢調査、推計値は独自推計結果)

項目	県内順位	数値・割合
総人口(人)	⑱	15,123
総面積(km <sup>2</sup> )	⑳	8.72
年少人口割合(%)	②	14.4
生産年齢人口割合(%)	①	66.8
人口増減率(‰)	④	0.4
出生率(‰)	①	9.5
可住地面積割合(%)	①	100
刑法犯認知件数(件)	②	5.8
交通事故発生件数(件) (人身事故)	②	2.05

※出典 2022統計でみる三重のすがた  
(三重県・・・29市町)

# 公共交通の現状

## ○鉄道(近鉄名古屋線)

川越富洲原駅(川越町)、伊勢朝日駅(朝日町)

## ○路線バス

現在運行なし

## ○タクシー

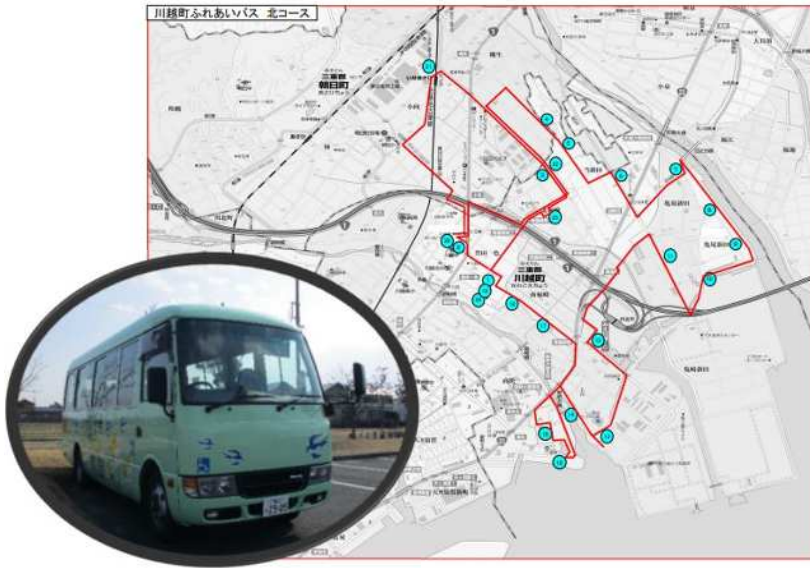
民間のタクシー会社5社が運行

## ○ふれあいバス(コミュニティバス)・・・年末年始、日・祝は運休

2台のバスで、南北の2ルートを1日各8便(概ね1時間に1便)巡回運行

# ふれあいバス(コミュニティバス)の状況

## ◆北コース(バス停24か所)



## ◆南コース(バス停20か所)



ふれあいバスの始まり

・・・マイクロバスで町内各地区を回って、終点総合センターへ

# ふれあいバスの課題

- **利用者の固定化・・・新規利用者なし？**

コロナ禍により減少はあるものの、  
一定数の需要はある

- **コース設定・・・目的まで時間がかかる**

所要時間・・・北：63分（距離...19.5km）

南：59分（距離...17.8km）

- **ふれあいバスアンケート**

回答率・・・76.4%（関心は高い）

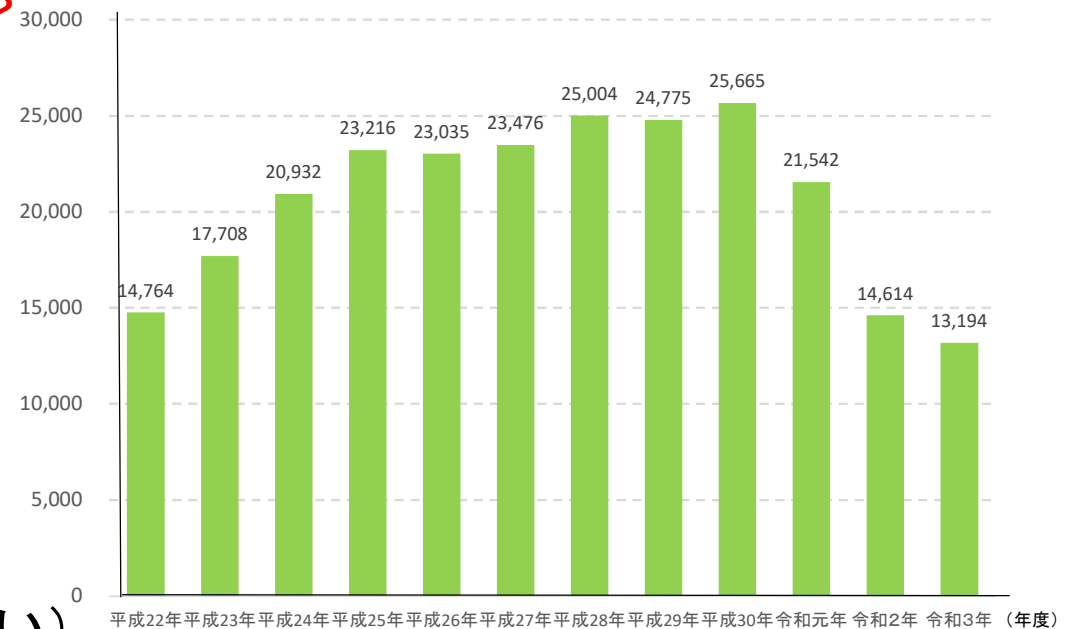
利用したことがない・・・約80%（利便性低い）

ふれあいバスのイメージ・・・空気を運んでいる

「遠回りして、目的地までの乗車時間が長い」、「いつも乗車人数が少ない」などの意見

ふれあいバス年間利用者の推移

（年間延人数）



資料：福祉課



# 地域公共交通全体の見直し

## <理想>

- ・ふれあいバス・・・基幹路線的役割
- ・デマンドタクシー・・・支線的役割
- ・鉄道・・・基幹・支線路線と接続し、町外へ移動

## <検討方針>

★ふれあいバスの運行見直し・効率化(三重大学と共同研究)

★デマンドタクシーの導入検討

# ふれあいバスの補足説明

- 歴史

平成20年度から福祉バスとして運行を開始。福祉バスとして運行する前は、老人福祉センター利用者の送迎バスとして運行。

⇒現在の巡回形式のルート設定は、各地区を回って、老人福祉センター(総合センター)に行くが基本となっている。

- 委託料

ふれあいバスの運行については、町所有のバス2台を提供し、運行を三重交通に委託している。年間の委託料は、約2,200万円。

- 車両の状況

現在、南北2ルートを2台のバスで運行。うち1台のゆたか号は、寄付を受けた車両で、平成20年から運行している。もう1台のいきいき号は、平成30年に老朽化のため、買い替えを行っている。約1,000万円で購入している。